



大阪+知的障害+地域+おもろい=創造

知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 3045号 2016.5.28 発行

熊本の障害者、支援急務…自宅損壊や症状悪化163人 読売新聞 2016年5月27日

熊本地震で被害が大きい熊本県 益城 町と熊本市で、危険な自宅に住み続けたり、症状が重くなったりして、緊急支援が必要になっている障害者が少なくとも163人いることが、民間支援団体の全戸訪問調査でわかった。

益城町では、調査に応じた障害者の1割を超えており、県は福祉関係機関を通じ、福祉サービスの提供や住居の確保などの対策に乗り出す方針だ。

障害がある人たちの現地支援を続けているNPO法人「日本相談支援専門員協会」（埼玉県）などの団体が25日までに、益城町と熊本市東区、南区で、町や市の依頼を受けて調査を実施。高齢者を除く18～64歳の障害者手帳を持つ約4700人を訪問し、面会できた2486人のうち、163人（6.6%）について、新たな住居の確保や福祉サービス提供などの緊急支援が必要と判断した。

益城町では、面会できた293人中、支援が必要と判断されたのは34人（11.6%）で、このうち16人は、自宅が応急危険度判定で「危険」と判定されるなど大きく損壊していた。14人は障害や病状が重症化しており、11人は家族の介護負担が急増していた。

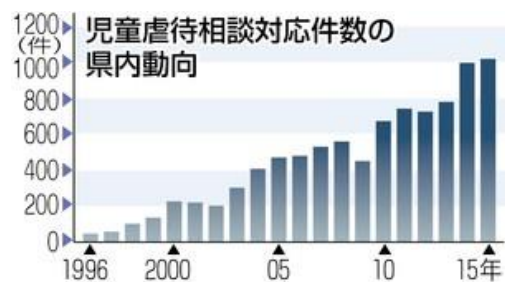
一人で複数の問題を抱え、同居家族も高齢者や障害者という世帯も目立つ。障害を抱えた子供が不安定な生活から不登校や過食症になったり、知的障害を抱えた人の自宅がごみであふれた状態になったりしたケースもあったという。

こうした事態を受け、県障がい者支援課は、復興業務に追われる益城町に代わって、障害者をサポートする各関連団体に対応を要請。緊急支援が必要とされる34人については、福祉避難所や新たな住居に移ってもらったり、障害福祉事業所で通所・入所サービスを利用してもらったりする方針だ。

日本相談支援専門員協会の菊本圭一代表理事は「人が多い避難所では眠れなかったり、パニック症状が起きたりする人のほか、避難所で車いすを使うと迷惑になると考える人も多い」と分析。その上で「災害時には、声を上げにくい障害者は忘れ去られてしまいがち。行政や支援者が出向いて継続的にSOSをキャッチしていかなければならない」と訴える。（上田貴夫）

岐阜 児童虐待、最多1018件 15年度の県対応 中日新聞 2016年5月28日

児童虐待が県内で後を絶たない。昨年度、県に寄せられた相談に基づいて親と子を引き離すなどの対応をした件数は前年度比2.2%増の千十八件となり、三年連続で過去最多となった。虐待を防ぐため、児童相談所の全国共通ダイヤル「189（いちはやく）」が昨年七月に運用を始めて相談や通報を受け付けており、県は「疑わしい場合でも迷わず声を上げてほしい」と呼



び掛けている。

県が二十七日に発表したまとめによると、相談の内容は、言葉による脅しや子どもの目の前で配偶者に暴力を振るうといった「心理的虐待」が全体の36%（三百六十九件）で最多に。次いで、殴る蹴るなどの「身体的虐待」が34%（三百四十九件）、養育の怠慢や拒否などの「ネグレクト」が27%（二百八十一件）と続いた。

相談後の対処では、親と子どもを引き離す「施設入所」が六十二件で例年とほぼ同じなのに対し、児童福祉司らによる在宅での「面接指導」が九百十四件となり、八百七十七件だった前年度からさらに増えている。

一方で県は、こうした相談件数には表れない虐待が一定数あるとみている。昨年七月には美濃加茂市で父親が生後一カ月の長女を殴り、脳に重い障害を負わせる事件が起きたが、発生前には虐待の通報や相談などはなかったといい、救いの手が差し伸べられることはなかった。

こうした現状を受けて県子ども家庭課の担当者は、地域の住民や学校など「外部の目」の重要性を指摘。深刻な事態になる前の段階で通報があり、面接指導で親子関係が改善された例もあることから、「子どもの泣き声を聞いたり激しい夫婦げんかを見かけたりしたら、ためらわずに相談してほしい」と話している。

全国共通ダイヤル「189」は二十四時間対応で、電話すると最寄りの児童相談所につながる。（近藤統義）

「AI診療20年以内に」 医師調査で7割回答 共同通信 2016年5月28日

医療現場での人工知能（AI）活用の可能性について、医師専用の情報交換サイトを運営する「メドピア」（東京）が医師約3700人を対象にアンケートした結果、約7割が「20年以内に診療を担う時代が来る」と答えたことが28日、分かった。

自由記述としては「数値化やマニュアル化できる部分は早いうちに機械化できる」「専門性が必要な『希少疾患』では人工知能の方が正診率が高い」との指摘がある一方、「インフォームドコンセント（説明と同意）や治療法の選択に関する話し合いは、やはり人と人のコミュニケーションが必要」との意見も出された。

法テラスの相談、被災者は無料に 改正法が成立 日本海財新聞 2016年5月27日

東日本大震災のような大規模災害時に被災者が日本司法支援センター（法テラス）の無料法律相談を受けられるようにする改正総合法律支援法が27日、参院本会議で全会一致で可決、成立した。「資力の乏しい人」に限定していた無料相談の対象を拡大し、生活再建に必要な法律相談に迅速に対応する。2年以内に施行する。4月の熊本地震も対象になる見通しだ。

経済力の有無にかかわらず、民事上のトラブルを解決するための無料相談を発生から1年間受け付ける。東日本大震災時は特例法で発生の翌年から相談業務を実施した。

改正法では災害時とは別に、認知機能が不十分な高齢者と障害者、ストーカーや配偶者からの暴力の被害者も新たに無料相談の対象とした。経済力があると確認された場合は相談後に費用負担が必要になる。

皇后さま「ねむの木」展へ 障害者の作品鑑賞 共同通信 2016年5月27日

皇后さまは27日、東京都中央区の東京銀座画廊・美術館を訪れ、手足や体の不自由な人々が暮らす養護施設「ねむの木学園」（静岡県掛川市）が催している展覧会「ねむの木学園のこどもたちとまり子美術展」を鑑賞された。

学園理事長で女優の宮城まり子さんが車いすに乗りながら案内。皇后さまは絵画などの

作品を見て「きれいね」と感心した様子だった。学園の人々が、皇后さまが高校生の頃に作詞した曲「ねむの木の子守歌」の合唱を披露すると、皇后さまも笑顔で口ずさんでいた。

ねむの木学園は、肢体が不自由な子どものために国内で初めて作られた養護施設。

障害者の就職 昨年度は9万人余で過去最多に NHK ニュース 2016年5月27日

昨年度、全国のハローワークを通じて就職した障害者は延べ9万人余りで、過去最多を更新しました。

厚生労働省によりますと、昨年度、全国のハローワークを通じて就職した障害者は延べ9万191人で、前の年に比べて5589人、率にして6.6%増えました。これは7年連続の増加で、過去最多を更新しました。

最も多かったのは精神障害者で前の年を11.2%上回る3万8396人、次いで身体障害者の2万8003人、知的障害者の1万9958人となっています。

就職先の産業別では医療、福祉が最も多く3万3805人と全体の4割近くを占め、次いで製造業が1万1933人、卸売業、小売業が1万1577人でした。

障害者の雇用については先月、法律が改正され、募集や採用の時に障害者を対象から外すなどの差別を禁止することが明記されたほか、再来年4月からは、企業に雇用が義務づけられている障害者に精神障害者も含まれるようになります。

厚生労働省は「採用する企業と働きたいという障害者の需要にそれぞれ応えながら人材が定着するよう支援していきたい」としています。

県内障害者就職1107件 9年連続最高更新 愛媛新聞 2016年05月28日

愛媛労働局は27日、2015年度に県内のハローワークを利用した障害者の就職件数が前年度比6.2%増の1107件となり、9年連続で過去最高を更新したと発表した。

労働局は「障害者の採用に積極的な企業が増えたことなどが要因」と分析。背景には、法定雇用率(2.0%)を達成していない場合に納付金を徴収する企業の対象が従業員200人超から100人超に広がったことや、従業員不足などがあるとみている。

障害者の新規求職申込件数も「関係機関のチーム支援が順調に進んだことや社会的理解が広がったこと」(労働局)などから、9.0%伸びて1979件だった。



北国から 幸福スズラン



読売新聞 2016年05月28日 高知
スズランを受け取る施設の代表者(県庁で)

県内出身者でつくる北海道高知県人会連合会(川田晴一会長)から県庁にスズランが届き、27日、社会福祉施設や児童養護施設など6施設への贈呈式が行われた。

スズランの花言葉は「幸福の訪れ」。故郷への感謝と励ましの気持ちを込め、同会が1963年から毎年、贈っている。

県庁で行われた贈呈式には、施設の代表者ら14人が参加。「スズランは北海道の初夏を彩る花。本年も皆さまに幸福が訪れますように」と書かれた川田会長からのコメントが紹介された後、県地域福祉部の井上達男副部長が、出席者にスズランを手渡した。

母子生活支援施設ちぐさ（高知市百石町）の吉田充・施設長（66）は「普段高知ではあまり目にしない花なので、玄関に飾って子どもたちに喜んでもらいたい」と笑顔を見せた。

「おもしろい」でつながる 29日バリアフリーイベント 大阪日日新聞 2016年5月28日
障害者と健常者、子どもと大人の垣根を越えて開催された前回の「つながらーと」（実行委員会提供）



障害や年齢に関係なく音楽とアート、スポーツを楽しむことを目的としたバリアフリーイベント「つながらーと」が29日、中央区の大坂城野外音楽堂で開かれる。

「音楽やアートを通じて、一つの空間を共有することで、障害について考えるきっかけになってほしい」と、イベント実行委員長の豊田朝日登さん（36）。豊田さんは日ごろ、障害児のスポーツ教室「チットチャット・スポーツ塾」（中央区）で、障害のある子どもやその保護者と接している。表面的なバリアフリーではなく、“手を差しのばす”バリアフリーの実現に向け、2014年に第1回を開催し、今回は2年ぶりとなる。

出演者は、ラッパーの「SHINGO★西成」、ヒューマンビートボックスの「AFRA」をはじめ、南アフリカ出身のマリンバ奏者「ノコシ・アフリカ」、ダウン症のパーカッション奏者「タケオ」ら22組。障害の有無や音楽ジャンルに制限なく、多彩な顔ぶれがそろった。

会場には、絵本広場や、絵画教室による「天才発掘ブース」と名付けた企画など、キッズスペースも充実している。

前回は1500人が来場。豊田さんは「イベントをきっかけに何かのつながりができ、誰かの助けや支えになればと思います。『楽しい』『おもしろい』をみんなで共有しませんか」と呼び掛けている。午前11時～午後7時。入場無料、小雨決行。

発達障害 結婚「憧れと諦め」 読売新聞 2016年05月26日
障害者カップルが理解を深めあう日々を描いた「ボクの彼女は発達障害」。直美さんは、「この作者みたいに優しい人がいたらいいな」と（大阪市北区の「ムートンオット」で）＝近藤誠撮影

独身、一人暮らしについてあれこれ考えている当欄宛てに、大阪の直美さん（37）から便りが届きました。（編集委員 森川暁子）

（私も独身で、今年で37歳。きょうだいと一緒に親と同居して、なんとか助け合いながら暮らしております。29歳の時に発達障害だということがわかり、結婚するかしないか、今でも迷っています。

現在、アルバイトの身で、経済的に苦しい事もありますが、発達障害特有の「顔の表情が読み取れない」ことや、「気がつくと相手を怒らせてしまう」ということがあったりして、「やっぱり無理かなあ」と思ったりします）

直美さんを訪ねました。

いつか家庭を築くものだと……

幼いころから友達の輪に入らない子だったそうです。本が好きで、友達の家に行けば、その子のことより、その家の本棚にある本のことで頭がいっぱいになりました。活字に親



しんできたせいか、直美さんの文章はわかりやすく書かれています。

高校を卒業して工場に就職しましたが、製造ラインでぼんやりしてしまい、9か月で退職。その後は祖母の介護などをしていました。

発達障害（アスペルガー症候群）の診断を受けた後は、事情を理解してくれるスーパーで、カートを片づける仕事に就きました。体調を考慮した短時間のアルバイトで、障害年金を合わせて、収入は月に10万円ぐらいです。



直美さんの自画像

いつか結婚して家庭を築くものだと思っていたし、親にも早く結婚とと言われていたそうですが、障害がわかってからは、どうしたらよいかわからなくなりました。

心に決めていること

絵が上手な直美さんが、思いを描いてくれた

〈かかりつけの精神科の先生にも相談しないとイケません。（結婚するなら）同じ障害を持つ方との方がいいかなあと思

ったりしますが、発達障害者専用の婚活はなかなかないので、出会いもありません。

ただ、心に決めている事があります。気がつくとも相手を放っておいて自分勝手な行動ばかりしていたり、自分一人である方が楽しかったり、世間の体裁をとりつくろふことや、肩書にとらわれていることがあったら、結婚はやめておこうという事です

直美さんは、話をしながらノートに大きな円を描き、縦線で半分に分けて区切りました。結婚へのあこがれと、無理だと思う気持ちは半々です。

手紙には、こんな文面もありました。

「赤毛のアン」マリラおばさんって、いいな

〈人口の減少はどうしても気になりますけれど、自分の障害が原因で相手を苦しめてしまうのは、本当につらいし、いけない事です。

でなければ、このまま、同じ障害を持つきょうだいと力を合わせて「赤毛のアン」に出てくるマリラとマッシューのように暮らしてゆくのもいいかもしれません。アンのような子が、うちにも来てくれるかどうかはわかりませんが

モンゴメリ作の「赤毛のアン」で、施設から来た少女アンを引き取って育てるマッシューとマリラは、未婚の兄妹です。直美さんは子供のころ、この本をアンの視点で読みましたが、今は、結婚しないで子供を育てるマリラたちに、とても興味を引かれるそうです。実は、私も同じ事を考えたことがありました。（現実的には難しそうですが）

〈もしも、子供ができなかったら、何か一つ、「世の中の役に立つもの」を作っていきたいと思っています。それが何なのかは、自分でもまだよくわかりませんが、これからじっくり考えていくつもりです

ごきょうだいにも障害があり、心配事は尽きませんが、仲はとてもよいそうです。直美さんはこんな風におっしゃいました。

「乗り合わせた宇宙船みたいなもので、この乗組員でやっていくしかないのかもしれない。でも、ステップアップができるように、これまでの生活から、少しずつはみだしてみようと思います」

「お互いに、ぼちぼちいきましょうよ」。別れ際、直美さんはそう言って、私をはげましてくださいました。

◆アスペルガー症候群 人との意思疎通が苦手で、特定のことに強くこだわるなどの特徴がある。先天的な脳機能障害が原因とされる。



別文化と理解し、つきあう

早稲田大の梅永雄二教授（発達障害臨床心理）の話「定型発達（健常）の人と、あるいは障害がある人同士で結婚をして仲良くやっているケースはありますが、不安になる気持ちもよくわかります。アスペルガー症候群への理解がもっと広がることが重要です。治療すべきものではなく、いわば別の文化を持った人たちだ、という見方ができます。違って当たり前と考え、求め過ぎず、その人自身をよく観察してつきあう。実はアスペルガー症候群の人に限らず、これはあらゆる人との関係にいえることです」

何か一つ世の中の役に立つことを

前回の「パンダおばさん」へのご感想をいただいています。大阪市淀川区の住職、服部隆志さんは「どこの誰だか知らないけれど、誰もがみーんな知っている」は、月光仮面の主題歌です。普通のおっさん、おばちゃんの変身して誰かを救う、そんな変身願望って、あると思います」と書いてくださいました。ありがとうございました。

本日は、お便りをもとに、発達障害がある直美さんの思いを聞きました。〈子供ができなかったら、何か一つ世の中の役に立つことを〉という言葉が胸に響きます。そんなことを考えたことがある人は、少なくないと思います。

克服すべき課題とされる「少子化」も「高い生涯未婚率」も、つぶさにみてみれば、直美さんを含めた大勢の、迷いや葛藤が積み重なった結果なのかも、と思いました。

直美さんが今後、どんな出会いをされ、どう決断なさるのかは、まだわかりません。でも、そうです、ぼちぼちまいりましょう、お互いに。（森川暁子）

◆お便りはこちら 〒530・8551（住所不要）読売新聞大阪本社編集委員室「シングルスタイル」係、ファクス06・6366・1894、メールは single@yomiuri.com

要介護度改善したら、事業所に奨励金 神奈川県が新事業 岩堀滋

朝日新聞 2016年5月28日

「介護離職ゼロ」を目指し、神奈川県は27日、関連の新規5事業で計約1億5800万円の一般会計補正予算案を県議会本会議に提案した。現在の制度では、要介護度を改善すると介護報酬が減ってしまうが、減収を補う「奨励金」を県と市町村指定の介護事業所に出す。ほかにも中高年の介護就労を支援したり、介護助手の導入効果を検証したりする。いずれも全国で実施例が少ないという。

「優良介護サービス事業所等奨励金」（2240万円）は、要介護度を改善するとともに給与増など職員の処遇改善を進め、離職率低下に取り組む事業所や施設が対象。外部有識者らで作る選考会で評価し、訪問、通所、居住、入所の4サービスで各5事業所に100万円ずつ交付する。7月をめどに募集し、11月に交付する計画だ。

県地域福祉課によると、現在の制度では要介護度が3から2に改善した場合、要介護者1人当たり年約80万円の介護報酬減になる。福井県や東京都品川区なども減収を補う取り組みを進め、川崎市も今夏から利用者1人当たり年約5万円の報奨金を出す。職員の処遇改善に取り組んでいるかどうかにも目を向けた制度はあまり例がないという。

「中高年齢者介護分野就労支援事業費」（4828万円）は、新たな介護人材の発掘を目的に、未経験でも意欲のある中高年齢者向けの研修を専門団体に委託して実施。介護サービス事業所への就労をあっせんするなど一貫して支援する。県内4地域で定員40人の研修を2回予定している。

また、「介護助手導入検討事業費」（6260万円）は、洗濯や食事の配膳などをする介護助手を県内20施設で3カ月程度雇用。介護職員との役割分担が可能か、検証する。専門性が求められる介護職員の負担を減らすことが目的だ。

ALS 闘病のFC岐阜前社長、障害者支援の新会社設立へ 室田賢



朝日新聞 2016年5月27日
FC岐阜前社長の恩田聖敬さん。「寄付をしていただいた方がちゃんと納得していただける会社にして、恩返しをしたい」＝岐阜市長良福光

サッカーJ2のFC岐阜の前社長で、難病の筋萎縮性側索硬化症（ALS）と闘病している恩田聖敬（さとし）さん（38）がインターネットで創業資金を募り、新会社を設立する。自身の知識や経験を通じて「社会の役に立てる」と、医療環境の改善や障害者支援の情報を発信する。

ALSは身体を動かす神経が徐々に失われ、全身の筋肉がまひする原因不明の難病。進行すると、呼吸困難になり、人工呼吸器が必要になる。2014年度時点で、全国に9950人の患者がいるという。

岐阜県出身の恩田さんは妻（37）、長女（7）、長男（5）との4人家族。京都大学大学院で航空宇宙工学を研究し、

「人を喜ばせたい」とアミューズメント施設会社を経て2014年4月にFC岐阜の社長に就任し、「岐阜を盛り上げるチャンス」と意気込んだ。

だが、そのころから右手に違和感を覚えていた。当時は深く考えず、仕事に没頭した。病名が分かってからも周囲に隠したが、症状は左手、さらに足にも現れるようになった。

思い通りに体を動かさず、「このままでは会社のためにならない」と昨年12月、社長の座を降りた。「私が初めて出会った天職だったので、悔しかった」と振り返る。

社長を退任した後、自分のできることをひたすら考え続けた。今年1月、インターネットのブログで自身の症状を書き始めた。

福祉避難所不足切り札、益城にトレーラーハウス40棟 読売新聞 2016年05月28日



福祉避難所として活用されるトレーラーハウス（27日、熊本県益城町で）＝浦上太介撮影

熊本地震で被災した熊本県益城町が、障害者や介護が必要な高齢者、妊娠中の女性ら要援護者用の「福祉避難所」としてトレーラーハウスを導入し、28日から対象者への説明を始めた。内閣府によると、トレーラーハウスを活用した福祉避難所の設置は全国初の取り組み。今回の被災地では福祉避難所が大幅に不足しており、町は、

設置が簡単で設備も充実しているとして、計約40棟を導入する方針。

トレーラーハウスは車で牽引できる移動式住宅。今回導入するのは広さ約15～30平方メートルでエアコンやベッドを備え、水道、ガス、トイレ、風呂、台所付きのタイプもある。1棟に1～3世帯の入居を予定しており、複数世帯が利用する場合は仕切りを設ける。

来月中旬までに一般避難所の駐車場など計6か所に置く方針で、既に大型催事場「グランメッセ熊本」などに10棟以上を運び込んだ。

県によると、今回被害が大きかった12市町村では、地震前、福祉避難所として高齢者施設など271か所（2911人分）を指定していた。しかし、建物被災や人手不足で対応が進まず、今月10日現在、開設は55か所（591人）にとどまる。益城町でも福祉避難所が不足し、障害者や高齢者が損壊して危険な自宅に住み続けたり、症状が悪化したりにして問題になっている。

そこで、被災地で支援活動を続ける一般社団法人「協働プラットフォーム」（東京）が町にトレーラーハウス活用を提案。レンタル料などは災害救助法に基づき国と県が負担する。

トレーラーハウスは東日本大震災で、一般避難所の共有スペースとして活用された例がある。

連絡先を記せる「ボタン」 おしゃれに安心身につけて 高橋友佳理

朝日新聞 2016年5月28日

日

安否ボタンを持つ青木一誠さん
＝武蔵野市

東京都武蔵野市の72歳の男性が、いざという時に身元が分かるボタンを考案した。服に縫い付けるほか、リングを使ってキーチェーンや携帯ストラップにも付



けられる。300個を試作し、親戚や友人に配ったところ「おしゃれ」「これなら付けられる」と好評だ。

金属製のボタンで、表に「ANPI G&B's」の文字。「じいちゃんとはあちゃんの安否」の意味だ。裏には付属のシールに名前と電話番号、住所を書いて貼り、保護フィルムをかぶせて消えないようにする。情報を書き込めるよう、直径は少し大きめの23ミリだ。

作ったのは同市緑町1丁目の青木一誠（いっせい）さん。大手企業を5年前に退職後、シルバー人材センターに登録して小学校で放課後の施設管理員などをしている。

安否ボタンを作り始めたのは2年前。認知症が原因で徘徊（はいかい）し、家族などから警察に捜索願を出された人が1万人以上にのぼることが報道されていた。青木さんが「名前と住所、電話番号を書いたボタンがあるといい」と話していたのを妻の洋子さん（73）が思い出し、背中を押した。

未来を選ぶ

北海道新聞 2016年5月27日

中学生のころ、説教くさいと敬遠した本でも大人になって読み返すと、感慨を覚えることがある。評論家、吉野源三郎さんの「君たちはどう生きるか」がその一つ。少年向けに倫理を説く物語だが、なかなか奥が深い▼ある一節に目が留まった。「人間て、水の分子みたいなもの」。主人公で旧制中学生のコペル君は百貨店の屋上から下を歩く人々を眺め、感想を言う。人間が分子のように集まったのが、社会に思えたらしい▼実はコペルの名は地動説を唱え、常識を覆したコペルニクスにちなむ。手あかのついた考えにとらわれず、自分なりの見方をするのは簡単ではないが、それをためらう社会はよどんでいる▼日中戦争が始まった年に出版されたこの本。思い出したのは、松井久子監督のドキュメンタリー映画「不思議なクニの憲法」を見たからだ。学者や学生、主婦らが思い思いに憲法との関わりを語る▼車いすの人権活動家と呼ばれる安積遊歩（あさかゆうほ）さんは「障害者が真ん中にいられる社会が成熟や平和の指標」と述べる。憲法の平和主義でさえ道半ばということになる▼映画は改憲の是非を示さない。「あなたはどんな未来を選択しますか」という字幕で終わる。答えはそれぞれが解くしかない。吉野さんも健在なら同じ呼び掛けをするだろう。映画は28日に札幌プラザ2・5で上映される（連絡先は大居さん（電）090・1389・8839）。



月刊情報誌「太陽の子」、隔月本人新聞「青空新聞」、社内誌「つなぐちゃんベクトル」、ネット情報「たまにブログ」も
大阪市天王寺区生玉前町5-33 社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所発行